



令和3年10月6日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（9月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和3年9月分）

1. 池ノ上学長に国立サンマルコス大学名誉博士号を授与
2. 「在福岡米国領事館×宮崎大学 アメリカン・インフォメーションデスクセミナー」が国際連携・高大接続のグッド・プラクティスに選定
3. 令和3年度宮崎大学・鹿児島大学定例意見交換会を実施
4. 宮崎大学生生活協同組合に対する感謝状を贈呈
5. 宮崎大学生が撮影・編集した動画をテゲバジャーロ宮崎が公式チャンネルで公開
6. 東洋経済オンライン「本当に就職に強い大学ランキング」で第8位にランクイン
7. 令和3年度宮崎大学「夢と希望の道標」奨学金贈呈式を実施
8. 令和3年度宮崎大学秋季学位記授与式を挙行
9. 「松尾壽之名誉教授業績展示ブース設置オープニングセレモニー」を開催
10. 延岡・ミャンマー友好会からミャンマー人留学生へ寄附金の贈呈
11. 池ノ上克学長の退任記念講演会を実施

1. 池ノ上学長に国立サンマルコス大学名誉博士号を授与

令和3年8月10日、ペルーの協定校の国立サンマルコス大学 (UNMSM) から池ノ上学長へ贈られた名誉博士号の授与式が開催された。

本授与式は、池ノ上学長の功績を称え、名誉博士号の授与を決定したペルーの国立サンマルコス大学において実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地訪問を断念せざるを得ず、本学において実施したものである。

授与式には、協定校の窓口等関係教員並びに国際関係職員が出席し、次学長で本協定

校窓口教員のひとりである鮫島理事から池ノ上学長に UNMSM の名誉博士記およびメダルが授与された。また、本授与式の様子は、UNMSM 学長や関係者にも動画や写真で共有された。池ノ上学長は、1991年医学部産婦人科に初めて国費留学による大学院生として受け入れた現 UNMSM 医学科准教授 アルトゥーロ オオタ ナカソネ氏との長きに渡る交流、そのオオタ氏をきっかけに発展した2018年の UNMSM との大学間交流協定締結、2019年のオレステスカチャイ ボーザ前学長一行を迎え開催した合同シンポジウム等に思いを馳せられた。さらに、現在両大学で行っているウイルス関係の共同研究に期待を寄せるとともに、本授与に対し UNMSM へ心からの感謝の意を表した。

UNMSM とは、このコロナ禍においても、オンラインによる学生や学術の交流を重ね、今後の交流および関係をより強化することとしている。



2. 「在福岡米国領事館×宮崎大学 アメリカン・インフォメーションデスクセミナー」が国際連携・高大接続のグッド・プラクティスに選定

令和3年8月19日(木)、文科省「トビタテ！留学 JAPAN」主催、大学間協働留学促進プラットフォーム (SIPS) の研修が開催された。

本研修において、宮崎大学が在福岡米国領事館と実施しているアメリカン・インフォメーションデスク (AID) セミナーが、国際連携及び高大接続のグッド・プラクティスとして紹介され、文科省、各県の教育委員会、米国、カナダ等の各国大使館及び大学・高校関係者の約120名が参加した。

宮崎大学は、在福岡米国領事館との附属図書館プロジェクトの一環として、高校・大学向けの AID セミナーを実施している。これまでにアメリカ合衆国の現役外交官や世界銀行職員

等による6回のセミナーに高校生・大学生延べ約1500人が参加しており、地域のニーズに応えた国際化に大きく貢献している。

研修では、本セミナーに宮崎県の高校・大学だけでなく大分県からも多くの高校が参加していること、セミナーの教育効果は講義のみならず、登壇者への質疑応答などを通して宮崎・大分の高校生が互いに刺激を受けていることなどが紹介された。



紹介後の質疑応答では、他大学の教員から、高校との具体的な協力方法などに関して質問が寄せられ、闊達な意見交換が行われた。また、実際にセミナーに参加している大分県教育委員会より、地方の学生にとって外交官や国際連合職員などと交流できるのは、国際化を学ぶ上で非常に貴重な機会であるとのコメントがあった。

本学は、今後もこのような取り組みを通して国際交流の促進に貢献していくこととしている。

3. 令和3年度宮崎大学・鹿児島大学定例意見交換会を実施

令和3年8月31日（火）、宮崎大学および鹿児島大学は、定例の意見交換会を実施した。

この意見交換会は、毎年両大学が交互に学長及び理事を迎え、大学や地域の抱える課題について意見交換を行うものであるが、今年度はコロナ禍の状況を踏まえ、昨年度に引き続きweb会議となり、宮崎大学の主催で実施された。



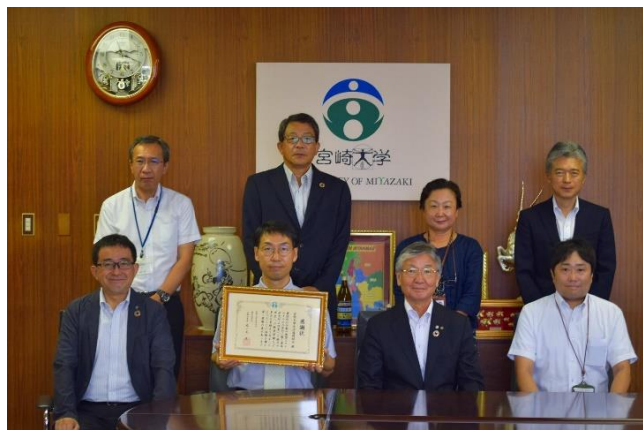
会では、IRを利用した大学の機能強化について両大学からそれぞれ取組内容の紹介があり、闊達な意見交換が行われたほか、リニューアルした宮崎大学附属図書館の紹介や退任される先生方からの挨拶があるなど充実した内容となった。

今後も引き続き本意見交換会を継続し、教育・研究以外の連携強化も図るとともに、次年度は対面で開催できることを祈念し、閉会した。

4. 宮崎大学生生活協同組合に対する感謝状を贈呈

令和3年9月6日（月）、学長室において、宮崎大学生生活協同組合への感謝状贈呈式を行った。

新型コロナウイルスの流行に際し、同組合が行った学生食堂の感染拡大防止対策への協力や学生への食料品等の物資の寄贈といった活動による多大な貢献に対して謝意を示すもので、池ノ上克学長から高橋俊浩理事長に対して感謝状が贈呈され、高橋理事長



からは、「安全衛生保健センター、学生生活支援課ならびに関係部局との連携によってこのような協力ができた。今後とも宮崎大学と一体となって学生を支援していきたい。」と感謝の言葉が述べられた。

5. 宮崎大学生が撮影・編集した動画をテゲバジャーロ宮崎が公式チャンネルで公開

宮崎県初のプロサッカークラブであるテゲバジャーロ宮崎と地域資源創成学部 企業マネジメントコースの丹生晃隆研究室（技術経営・ベンチャー）は、2019年度より「宮大×テゲバ交流イベント」を開催している。

令和2年12月11日に、テゲバジャーロ宮崎の選手と学生数人でグループをつくり、テゲバジャーロ宮崎の公式



YouTubeチャンネルに投稿する動画の企画内容を考えるオンラインイベント「YouTube ネット作り選手権」を開催した。このイベントで提案された7つの企画の中で、Twitter投票1位を獲得した「宮崎てげイ場ジャーロ」の動画が公開された。企画、撮影、編集と全て学生が行ったものである。

<https://www.youtube.com/watch?v=JpwoW8UNi5M>

6. 東洋経済オンライン「本当に就職に強い大学ランキング」で第8位にランクイン

株式会社東洋経済新報社が配信する「東洋経済オンライン」(2021年9月17日掲載)の「本当に就職に強い大学ランキング」において、トップ150校が紹介され、本学の実就職率は93.9%(前年比0.9%増)で第8位にランクインした。

本調査は、卒業生が1,000人以上の大学における実就職率の上位150校をランキング化して公開したものである。コロナ禍の影響を受けて多くの大学において、2021年卒の就職率が前年の数値を下回るなか、本学においては前年の数値を上回った。

また、上位10校のうち6校が工学系大学で、国立の総合大学は本学を含めて2校のみで、九州地区においては本学の実就職率が最も高い結果となった。

これは、キャリア支援係や各学部の同窓会などによるきめ細やかな就職活動支援はもちろん、「みやざき産業人材認定証」や「地域活性化・学生マイスター」制度、さらには1ヶ月以上のインターンシップの推進などにより、大学入学当初からのキャリア教育の充実が今回の結果につながったものと考えられる。

本学では、今後も様々な機関と連携しながら、学生の就職活動を強力に支援していくこととしている。

【東洋経済オンライン(2021年9月17日掲載)「本当に就職に強い大学ランキング」】

<https://toyokeizai.net/articles/-/456044>

7. 令和3年度宮崎大学「夢と希望の道標」奨学金贈呈式を実施

令和3年9月21日(火)、宮崎大学「夢と希望の道標」奨学金の贈呈式が創立330記念交流会館コンベンションホールで執り行われた。この奨学金は、平成27年に設立された本学独自の給付奨学金制度で、今回、学業成績が特に優秀な学生59名(留学生含む)が奨学生として選出された。贈呈式では、池ノ上学長から贈呈



証書が奨学生に渡され、お祝いと激励の言葉が贈られた。奨学生の代表者からは、謝辞として「給付いただいた奨学金により経済的不安を感じず、学業に励むことができる。コロナ禍というこれまで経験したことのない状況であるが、今後も日々精進していく。」との決意が述べられた。

8. 令和3年度宮崎大学秋季学位記授与式を挙

令和3年9月24日(金)、創立330記念交流会館コンベンションホールにおいて、令和3年度宮崎大学秋季学位記授与式を挙



式は本年4月以降に学位取得の

要件を満たした修了生が出席し、留学生修了者の増加や大学の国際化を踏まえ、使用言語は英語で行った。

また、令和2年度に引き続き、来場は修了生に限定し、受付での検温や手指消毒などの感染防止対策を実施した。

修了生(外国人留学生2名)からは、指導教員をはじめとする研究室の仲間たちや宮崎大学で出会った友人に感謝すると、時折日本語も交えながら謝意が述べられ、池ノ上克学長からもイタリア北部で今なお語り継がれている言葉を引用しながら、修了生に激励の言葉が贈られた。

9. 「松尾壽之名誉教授業績展示ブース設置オープニングセレモニー」を開催

令和3年9月24日(金) 附属図書館医学分館において、「超微量の黄体形成ホルモン放出因子(LH-RH)の構造決定」に代表される松尾壽之名誉教授の医学分野に多大な影響を与えた多くの業績を称える展示ブースが設置され、そのオープニングセレモニーが開催された。



本セレモニーは、コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮

小し執り行われたが、松尾名誉教授ご夫妻も出席し、本学学長をはじめ理事、医学部長、病

院長などがその功績を称えられた。

学長からは、「大きな困難にぶつかったら、ミュージアムに行って歴史を学べ」とイタリアボローニャ大学の言い伝えを引用され、本ブースに展示された数々の業績は正に値千金の歴史であり、今後、若い研究者や学生が何かにつづかった際は、是非、このブースを訪れ、松尾名誉教授の足跡をたどり、未来の我々が向かう道を学んでほしいと挨拶が述べられた。また、松尾名誉教授からは、本学で取り組んでいた頃の研究の思い出とともに、当時の様々な苦労や失敗の連続から、その事に関しては自分が一番知っているんだという逆転の発想が生まれ、新たな発見に繋がった様子などが語られ、展示ブース設置に対して謝辞が述べられた。

奇しくも、セレモニー当日は松尾名誉教授の誕生日ということで、本学学生、教職員が松尾名誉教授の意思を継いで、新たな歴史を刻んでいくことを予感させるオープニングとなった。

10. 延岡・ミャンマー友好会からミャンマー人留学生へ寄附金の贈呈

令和3年9月29日（水）、本学に在籍するミャンマー人留学生および今後來日する予定の同国からの留学生に対する修学支援を目的に、延岡・ミャンマー友好会からの寄附申し出があり、寄附目録贈呈式を実施した。現在、本学にはミャンマーからの留学生15人が在籍し、うち2人は新型コロナウイルスや今年2月に同国で発生した危機事象の影響で渡日できていない状況にある。また、本学に



留学して間もないミャンマー人留学生が、危機事象の発生後、本国から日本への送金がストップし、生活に困窮している状況も発生した。そこで、本学が留学生のインターンシップなどで連携関係にある同友好会に相談したところ、同友好会が構成団体の企業に寄附を募り、19社から約70万円の寄附を集めていただいたものである。

贈呈式では、吉玉友好会会長から池ノ上学長へ目録が手渡され、寄附金は在学する同国留学生への修学支援として活用されるとともに、今後、新たに渡日してくる留学生へ一時金として配付することが予定されている。

また、贈呈式終了後、関係者による懇談が行われ、同友好会とミャンマーとこれまでの繋がりが説明されるとともに、出席した2名のミャンマー人留学生から感謝の言葉が述べられ、

和やかな雰囲気の中に懇親を深めることができた。

本学では、コロナ禍の状況や政情不安等により帰国できない留学生へ身分を付与し、学生寮および学内施設の利用ができるよう支援するとともに、日本での就職を希望する学生への日本語教育の充実に務め、外国人留学生の支援に取り組むこととしている。

11. 池ノ上克学長の退任記念講演会を実施

令和3年9月29日（水）、9月末をもって任期満了により退任する池ノ上 克学長の退任記念講演会を宮崎観光ホテルにおいて実施した。今回は、新型コロナウイルス感染症の対策として、会場での視聴を宮崎大学教職員150人に限定し、参加予定であった約120名の学外者はオンライン形式により参加した。



池ノ上学長は、昭和45年に産婦人科医として鹿児島市立病院で勤務を開始。昭和51年に同病院で男児2人、女児3人の日本初の五つ子が誕生した際に、医療チームのリーダーとして出産と哺育に深く関わりました。平成3年1月に本学医学部産婦人科教授に就任してからは、宮崎県内における周産期死亡率を改善させるなど、周産期医療体制の充実に尽力。その後、平成19年10月に医学部長、平成22年4月に理事（病院担当）を歴任し、平成27年10月1日より国立大学法人化後3代目となる宮崎大学長に就任し、地域活性化の中核拠点となる大学としての旗幟を鮮明にして、地域との連携をこれまで以上に深めながら大学改革を進め6年間の任期を全うした。

講演会では、「学長六年間を振り返って」との演題で、就任当初からの6年間での印象に残った思い出を、写真を交えながら紹介し、学長としての6年間を支えてくれた関係者への謝辞が述べられ、今後も更に高みを目指して欲しい旨の激励があった。